

# C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

イタリア通信 26

## \*ブツダとネットと進化論\*

~Occidentali's Karma を歌おう~

深草 真由子

フランチェスコ・ガッバーニの歌うOccidentali's Karma(『西洋人's カルマ』)が今イタリアで大ヒットしている。気軽に口ずさめるノリのよいメロディに、ちょっと気の抜けたかんじのダンス、そして曲の途中でステージにあらわれるゴリラの着ぐるみがイタリアの老若男女のハートをつかみ、サンレモ音楽祭で優勝したのだ。YouTubeで視聴するならば、『西洋人's マンマ』『南イタリア人's カルマ』など、次から次へと投稿されている(たいへんよくできた)パロディに惑わされず、まずはオリジナルを(<https://www.youtube.com/watch?v=-OnRxhfbHB4>)。



【Occidentali's Karma】

出典:[https://it.wikipedia.org/wiki/Occidentali%27s\\_Karma](https://it.wikipedia.org/wiki/Occidentali%27s_Karma)

ミュージックビデオはイタリアにある禅宗の寺院で撮影されたそうだ(イタリアの仏教徒の数は14万に達するとみられ、その半数は創価学会の会員であると言われている。信徒の多くはイタリア人の

改宗者である)。冒頭からしばらくのあいだ、聞こえてくるのは歌声と弦楽器のピッチカートのみ。そして「ア・ア・ア」で始まる部分からバンドの演奏が加わり、曲想は一気に陽気になる。畳の間にうずくまったゴリラが立ちあがるあたりでムードは最高潮。どんな歌なのだろうか。さっそく歌詞を読んでみることにしよう。

Essere o dover essere

Il dubbio amletico

Contemporaneo come l'uomo del neolitico

素でいか カッコつけるか

新石器時代の人類みたいに

イマドキのハムレット的葛藤

Nella tua gabbia 2x3 mettiti comodo

Intellettuali nei caffè

Internettologi

Soci onorari al gruppo dei selfisti anonimi

縦横2、3メートルの檻の中でどうぞごゆるりと

カフェのインテリさま

ネット博士さま

名もなき自撮り専門家学会名誉会員さま

L'intelligenza è démodé

Risposte facili

Dilemmi inutili

知性はもはや時代遅れ  
回答はイージーに  
ジレンマはご無用

AAA cercasi (cerca si)  
Storie dal gran finale  
Sperasi (spera si)  
Comunque vada panta rei  
And singing in the rain  
大大大募集！（そう、探すのだ）  
ハッピーエンドのストーリーを  
求む！（そう、求めるのだ）  
どうなったって万物は流転するのさ  
雨のなかで歌ってるんだ

Lezioni di Nirvana  
C'è il Buddha in fila indiana  
Per tutti un' ora d' aria, di gloria  
ニルヴァーナのレッスン  
ブッダが列の中にある  
一時間の息抜きと栄光はみんなのもの

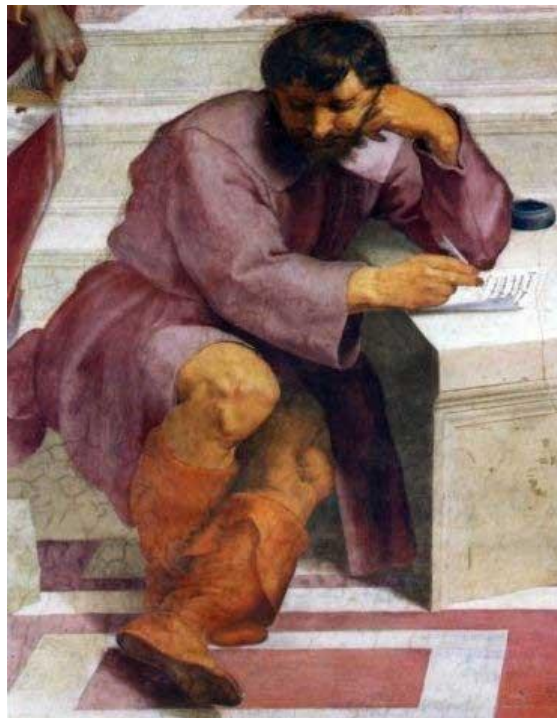
La folla grida un mantra  
L'evoluzione inciampa  
La scimmia nuda balla  
Occidentali's Karma  
群衆はマントラを叫び  
進化は頓挫し  
裸のサルは踊る  
西洋人のカルマ

インターネットは夢のような道具である。暮らす環境などにどうしても左右される文化的リソースの格差を縮小したのだから。ウェブはまるで日々新しくなる百科事典のよう。知りたいことがあればキーボードを叩けばよい。けれども、調べればすぐに分かるという便利さだけで、人は賢くなるわけではない。好きなサッカーチームのフォーメーションでも、アニメのキャラクターでもなんでもいい。とにかく夢中になれることを暗記しなさい。孫世代にあたる幼い子どもたちを想ってそんなメッセージを残したのは、今は亡きウンベルト・エーコであった。

さて、『西洋人's カルマ』が歌っているのは、オ

ンラインで虚栄心や自己顕示欲をあらわにしているわれわれ現代人（歌によれば「現代の西洋人」ということなのだろうが……）の皮相性である。ソーシャルメディアではみながプライベートや仕事の充実ぶりを競うように披露しあう。フォロワー数が名声の尺度、手軽な「いいね」クリックは共感のおすそわけ、「すごい」「かわいー」などひと言褒めコメントが友情の証。もてはやされるのは、ほんものの、だが地味な知性ではなく、口の達者な即席インテリたち。こんな時代、こんなわれわれの薄っぺらさを、軽快な音楽で歌って踊って笑ちまおうぜというのだ。

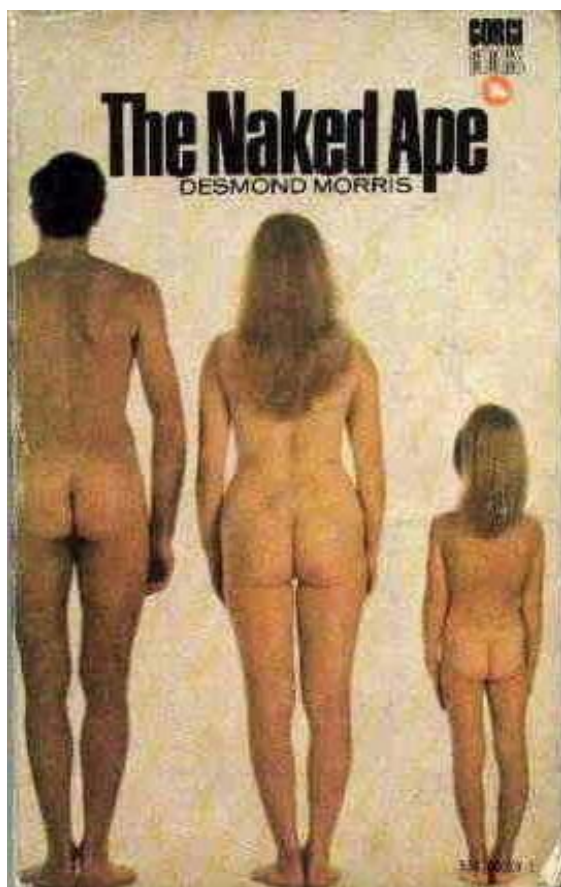
内容もさることながら、この歌のユニークさは、文化史上著名な文言などをおもしろおかしくもじったことば遊びにある。シャークスピアの悲劇『ハムレット』の名セリフ「生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ」（イタリア語では“Essere o non essere, questo è il dilemma”）は、SNSユーザーたちがスマホ画面を見つめながら陥るジレンマになる。哲学者ヘラクレイトスが提唱した概念、古ギリシア語の「パンタ・レイ（万物流転）」は、ミュージカル『雨に唱えば』の「シンギン・イン・ザ・レイン」とまやかしの韻をふむ。



【ヘラクレイトス（ラファエロ作『アテナイの学堂』より）】

出典：<https://ja.wikipedia.org/ヘラクレイトス>

没落する西洋があこがれる東洋文化からはブツダ、ニルヴァーナ、マントラ、そしてカルマの語が挙がる。流行だからといってヨーガや瞑想のレッスンに通って悦に入りながら、肝心の煩惱を減することには無頓着な人びとを茶化しているのだろうか。アメリカの芸術家アンディ・ウォーホルの名言「未来には、だれもが十五分間なら世界的な有名人になれるだろう」は、「一時間の息抜きと栄光はみんなのもの(あくまで檻の中での栄光ではあるが)」になる。二番にすすむと、シャネルの香水だけを身につけて眠るという女優マリリン・モンローの有名な発言は「ひ弱な体にシャネルのしずくがしたたる」になり、思想家カール・マルクスの『ヘーゲル法哲学批判』における言説「宗教は民衆のアヘン」は「ウェブは民衆のコカイン、貧乏人のアヘン」になる。



【モリス著『裸のサル—動物学的人間像』英語版表紙】

出典：[https://en.wikipedia.org/wiki/The\\_Naked\\_Ape](https://en.wikipedia.org/wiki/The_Naked_Ape)

もっとも存在感があるのはやはり、何度もリフレインされる「裸のサル」である。これはイギリスの動物学者デズモンド・モリスの著書『裸のサル—動物学的人間像』に由来する。モリスは言う、存在が確認されている193種の霊長類のうち、192種は体じゅうを毛でおおわれている。裸のサルはただ1種のみ。そのサルはみずからをホモ・サピエンスと呼ぶ……。

「知性はもはや時代遅れ」の世界に生息するわれわれ、自称「賢い」サルたちをチクリと批判しながらも、同時に愉快地踊らせてくれる『西洋人』sカルマ』。イタリアン・ポップスの最新の進化形である。

(元当館スタッフ)

## ～会館だより～

### カンツォーネ講習会

スクリーンミュージック、サンレモ音楽祭のヒット曲、クラシック音楽、ナポリ民謡から取り上げます。みんなで楽しく歌うことが目的なので、お気軽にご参加ください。初めての方も大歓迎です！ぜひご参加お待ちしております。

- ・会場：日本イタリア会館 京都本校
- ・日時：2017年6月2日(金)、9日(金)  
いずれも 14:00-16:00
- ・受講料：
  - 2回分一括：
    - 受講生・一般：5,000円
    - 個人維持会員：4,000円
  - 1回分：
    - 受講生・一般：3,000円
    - 個人維持会員：2,500円
- ・講師：山本 隆子(ソプラノ歌手)、岩坂 富美子(ピアノ伴奏)

## 『素晴らしき自転車レース 27』

### イタリア語でレース観戦

谷口 和久

本場ヨーロッパのプロレースは一大スペクタクルだ。鍛え抜かれた選手たちが最新鋭の機材にまたがり、美しい風景の中を疾走していく。

そんな壮大なオペラのようなレースを盛り上げるもののひとつに、レースの実況中継も数えられるだろう。

フランスでもイタリアでも名物アナウンサーともいべき人がいて、ツール・ド・フランスやジロ・ディ・イタリアの放送を見るときは、わからないながらも原語で見ている（聞いている）方が気分も盛り上がるというものだ。

とはいえ、やはり多少はわかった方がよりレースを楽しめることはたしかなので、実況でよく使われる単語を紹介したいと思います。

#### ・ al comando (アル コマンド)

集団から逃げを打って先頭を突き進んでいる状況。“comando”の本来の意味は「指揮」や「指令」で、すなわちレースをコントロールしているといったニュアンス。

1949年のジロで独走するファウスト・コッピに、アナウンサーのマリオ・フェツレットが送った名セリフ“Un uomo solo è al comando, la sua maglia è bianco-celeste, il suo nome è Fausto Coppi”で知られ、以降、広く使われるようになった。

#### ・ testa della corsa (テスタ デッラ コルサ)

直訳すると「レースの頭」、すなわち先頭。前述の al comando が、どちらかといえばアナウンサーがどっぷり感情移入している（よう

に聞こえる）のに対し、こちらはどちらかといえば即物的。ただ単に「前を走っている」といったニュアンス。



【1949年のジロで独走するコッピ】

出典: <http://www.cyclingarchives.com/beeldfiche.php?beeldid=117394>

#### ・ inseguitori (インセグイトーリ)

追走集団のこと。inseguitori は複数形で、一人だと inseguitore。seguire（追う）の名詞形。

#### ・ vantaggio (ヴァンタッジョ)

先頭と後方との時間差（あるいは距離の差）。アドバンテージ。同じような意味の単語として distacco もある。

#### ・ attacco (アッタッコ)

英語でいうところのアタック。同じようなシーンで使われる言葉として scatto（スカット：発射）もある。

#### ・ nella scia (ネッラ シーア)

風よけのために他の選手のうしろにピッタリつけること。scia は船などの軌跡の意。ロードレースは空気抵抗との戦いで、他人のうしろにつくと半分ほどの力で走ることができる。



【前を引くコッピと後ろにつくバルタリ】

出典元 : <https://lagazzettadellabici.wordpress.com/2010/06/27/coppi-and-bartali-in-the-greatest-ever-cycling-photograph/>

・ conclusione (コンクルジオーネ)

直訳すると「結末」。レースではゴールの意で使われる。

この単語がよく使われるフレーズとしては  
“mancano \*\* chilometri alla conclusione”  
(ゴールまで残り\*\*キロ)がある。

・ traguardo (トラグアルド)

こちらもゴールの意。

ちなみにゴール上の横断幕には“ARRIVO”と書かれているが、実況で聞くことは少ないようだ。

・ discesa (ディシェーザ)

下り。登りは salita (サリータ)。

プロ選手たちは、登りも下りも、とんでもないスピードで走り抜けていく。

・ montagna (モンターニャ)

山の意。峠は passo (パツソ)。

いずれもイタリアの大レースでは欠かせない存在だ。

・ pendenza (ペンデンツァ)

坂の斜度。パーセントで表示され、水平距離100m あたり1m 登ると斜度1%、10m 登ると斜度10%という計算になる。

イタリア語でパーセントは per cento (ペルチェント)。

・ curva (クルヴァ)

カーブのこと。

これに sinistra (シニストラ) がつけば左カーブ、destra(デストラ)がつけば右カーブ。

・ corridore (コッリドーレ)

自転車選手のこと。陸上のランナーもこの単語を使う。

広い意味での自転車乗りは ciclista(チクリスタ)。

・ favorito (ファヴォリート)

有力選手、優勝候補の意。人気選手という意味合いもある(こちらの方が本来の意)。

複数形は favoriti (ファヴォリーティ)。

・ gregario (グレガーリオ)

アシストのこと。本来は兵卒や手下といった意味。

アシストとは、チームの有力選手のために前を引いたり、水や食料を運んだりして、勝利のために貢献する役割を持つ。

・ direttore sportivo (ディレットトーレ スポルティーヴォ)

チーム監督のこと。

レース時はチームカー(自動車)を運転しながら戦況を見きわめ、選手たちに指示を出し叱咤激励している。

・ vittoria (ヴィットーリア)

勝利。

イタリアのタイヤメーカーで、その名も vittoria というブランドがある。

・ caduto (カドウト)

落車のこと。cadere (落ちる) の名詞形。あまり聞きたくない (けどよく聞く) 単語である。

・ in difficoltà (イン ディッフィコルタ)

苦しい状況にあること。息も上がりベダリングも乱れ、まわりからかなり遅れているような状況。

・ a voi (ア ヴォイ)

「マイクお返しします」といった意味合い。直訳すると「あなたたちに」。現場のレポーターがひとしきり実況を終えたあと、スタジオにつながぐ時にいうセリフ。

・ Vai! (ヴァイ!) Dai! (ダイ!)

「行け!」や「がんばれ!」の意。本来は沿道の観衆たちが口にする応援の言葉だが、イタリアのテレビ中継では、アナウンサーたちは実況よりも自国選手の応援を優先することが多い。

・ tifosi (ティフォージ)

熱狂的ファンのこと。単数形は tifoso (ティフォーゾ) で、本来は「チフス患者」の意味だが、イタリアの熱狂的ファンたちはチフス患者なみに熱にうかされているということか。選手たちより熱くなって、登り坂で尻を押ししたり、選手といっしょになって走り出したりすることもしばしば。

・ classifica generale (クラッシーフィカ ジェネラーレ)

総合順位の意。

ツールやジロなど、何日間もかけてレースを行うステージレースでは、毎日のタイムを積算して総合順位を決める。



【警官に取り押さえられるティフォーゾ】

出典元: <http://www.ilgiornaledivicenza.it/home/il-giro-delle-polemiche-percorso-blindato-tra-tifosi-e-contestat-ori-1.1005006>

・ gruppo (グルッポ)

集団のこと。

これから派生した言葉として gruppetto (グルッペット) という単語があるが、こちらは小集団の意。

グルッペットは日本のテレビ局のレース中継でもよく耳にする。ただ、日本では「遅れた集団」の意味で使われているようだが、これは誤用。先頭集団でも少人数であればグルッペットである。

(当館スタッフ)

編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館  
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 4  
TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357  
E-mail: [centro@italiakaikan.jp](mailto:centro@italiakaikan.jp)  
URL: <http://italiakaikan.jp/>